
中国上海市・浙江省・福建省の野菜生産、輸出等の動向

調査結果の要旨

生鮮野菜輸出先国生産出荷動向等調査事業による平成15年度第2回中国現地調査を平成15年11月3日(月)～12日(水)に実施したので、その概要を報告する。今回の調査では、上海市、浙江省、福建省等の主産地の主要輸出野菜である「キャベツ、たまねぎ、ねぎ」を主体に、輸出公司等からの聞き取りにより調査を行った。

上海市は、農場経営を主体として輸出契約等により安定した作付けが行われおり、作付面積及び輸出価格は安定している模様であり、今後も、11月から翌年3月における生鮮野菜の中国国内、輸出産地として重要な位置を占め続けると思われる。また、対日輸出が日本の景気低迷、残留農薬問題等から停滞していることから、輸出相手国を中東諸国に拡大するなど多様化を図っている。

浙江省は、輸出冷凍野菜工場の発展を背景とした原料野菜産地や省政府等による干拓事業により団地化された規模の大きい野菜産地が形成されている地域である。近年までは、地元の都市部、地元の大規模輸出冷凍野菜加工工場への原料野菜供給、杭州市や他省の輸出会社の輸出野菜買付けに対する生鮮野菜供給が主体であったが、近年では生鮮野菜の海外企業への直接輸出も増加している模様である。

福建省は、中国国内の冬季の農産物供給産地であるとともに日本等への冬季の輸出産地となっており、南部地域の東シナ海に面する温暖で「金三角地帯」と呼ばれる地域では、ねぎ、たまねぎなどの輸出野菜が栽培されている。白ねぎは、自社生産基地や契約栽培を主体として栽培・対日輸出されており、たまねぎは、原体で国内出荷されるとともに、輸出においては輸出加工公司による「剥き玉、剥き玉+上下カット」の半加工野菜が輸出されている。福建省は、今後も冬季の野菜産地の輸出産地として重要な位置を占めることになると思われる。

安全対策は、法令整備や政策により確実に進展しているが、地域的な格差がある模様である。国家質量監督検査検疫総局から2002年8月12日に施行された「輸出入野菜検査検疫管理弁法」では輸出野菜産地の最低登録面積が300ムとなっているが、一部地域では2003年においては100ム以上が暫定的に適応・運用され、2004年から300ムが適用される模様である。一方、農場経営が多い上海市、産地規模の大きい浙江省、福建省では規定どおり300ムが適用されている模様である。

公司での安全対策においては、上海市では市政府が作成した基準に基づく指導體制が整備されている模様であり、福建省では生産管理の徹底、生産履歴の整備、使用農薬の規定準拠等の安全対策を前提としたうえで残留の可能性の低い品目を栽培・輸出するという公司もあり、浙江省では栽培履歴の様式を取り決め契約栽培により村を指導している冷凍野菜公司もあり、一方、山東省の鎮では、鎮政府が鎮の農業技術普及ステーションを中心として栽培技術、生物農薬の普及、残留農薬検査を実施し、地域農産物の安全性の確保を図り地方政府の主導による安全対策が行われている。

なお、今回の調査は、上海市浦東区・崇明島、浙江省慈溪市、福建省福州市・浦県で行った。各産地の位置については、「第2回中国現地調査の行程」を参照されたい。

ねぎ、キャベツ等の産地である上海市浦東区



上海市崇明島



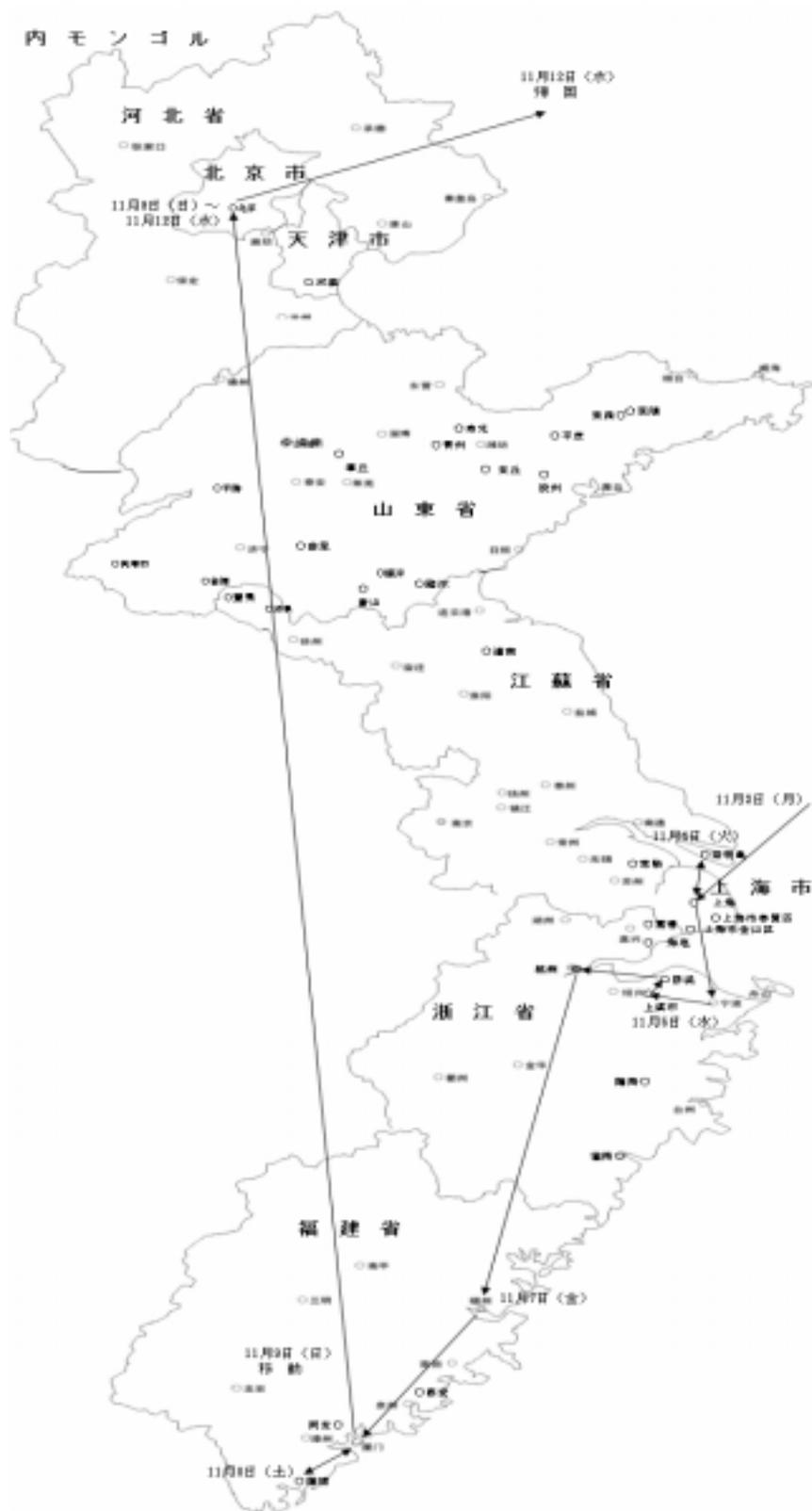
キャベツ、ブロッコリー、はくさい等の産地である浙江省慈溪市



ねぎ、たまねぎ等の産地である福建省 浦県



第2回中国現地調査の行程



調査品目の概要

【上海市、浙江省】

11月から翌年3月における「キャベツ、白ねぎ」等の主要輸出産地である上海市及び浙江省においては、生育期における高温・干ばつによる生育遅れ、収量の大幅な低下に伴い、輸出量の大幅な減少が予想されていたが、上海市に属する崇明島では干ばつ傾向ではあるものの降雨により順調な生育となっていた。

作付面積は、上海市においては農場経営が主体であり輸出契約等により安定した作付けが行われていることから輸出価格も安定している模様であるが、浙江省では前年価格の動向等による作付面積の変動は大きい。

【福建省】

1月から翌年6月における「キャベツ、たまねぎ、白ねぎ」等の主要輸出産地である福建省においても同様に高温・干ばつとなったものの、「キャベツ、たまねぎ」は順調な生育となった反面、「ねぎ」は、は種期の干ばつによる発芽率が低下し、1月～2月における輸出量の減少が予想されている。

作付面積は、前年価格の動向等による変動が大きい。また、冬季の野菜生産地域である福建省 州市 浦県においては、鎮政府からの借地（防風林）・開発による団地化された野菜産地の開発化が進行しており、白ねぎ、漬物用だいこん等の栽培が予定でされている。

【山東省】

輸出用白ねぎ、たまねぎ等の産地である山東省 坊市においては、「白ねぎ」の作付面積は、前年同程度の4万ムであったが生育期の多雨等による天候不順により単収は30%の減少となった。「たまねぎ」は作付面積の減少に加え、11月の寒波等により単収も10～15%減少したこと、日本への輸出価格が堅調であった上半期に輸出量が増加したこと、韓国の作況が多雨等の天候不順により不作となり韓国輸出が増加したことなどにより、冷蔵貯蔵量は例年の半分程度（9月現在）とのことであった。12月現在での聞き取りでは、残量は少なく、国内出荷向けが輸出に振り向けられている模様であった。

また、「ごぼう」は、主要産地である江蘇省西北部、山東省南部における2003年春植の作付面積がここ数年の輸出価格の低迷から2002年秋植に比べ大幅に減少（聞き取りでは半減）し、加えて多雨等による大幅な収量の減少（聞き取りでは1/3）から、農家庭先価格は800～900元/tから12,000元/tに上昇し、輸出価格も\$1,600/tと2002年の10～12倍程度に高騰しているとのことであった。

現地調査結果

1 上海市浦東区

上海浦東区は、長江の中流・下流の平原の一部に位置し、耕地面積約17.7万 μ 一、12の鎮の地域。主要作物は、水稲、小麦、綿、搾油用の作物、野菜であり、上海市内や全国の主要な農作物の供給産地となっている。また、区政府は、稲、麦等の食糧生産から野菜生産の推進等の構造調整を進めている。

調査会社は、上海市の東南に位置する上海市浦東臨空輸出農業園区にあり、2002年に設立され、浦東新区内の鎮政府の仲介により借地した農場 6,000 μ で、白ねぎ 2,500 μ 、キャベツ 1,500 μ 、ブロッコリー 1,000 μ 、青ねぎ 200 μ 等を栽培・輸出する他、国内販売用有機栽培、国内販売用すいか、輪作のための水稲を栽培している。

当該会社の設立は、浦東新区がもともと稲、麦等の食糧生産地域であったが上海浦東国際空港の完成により「野焼き」の離着陸への影響が懸念され他作物への転換が必要となったこと、区政府が積極的に当該会社の誘致を行っていたことが背景となっている。

(1) 白ねぎの生産・出荷の動向

通常はL L、L主体の輸出であるが、2003年産は高温・早魃によりL、M主体となり、輸出量は大幅な減少が見込まれ、輸出価格は、韓国の天候不順による不作、日本の作柄不良も加わり\$800/tと堅調な価格で推移していた。

ア 生育ステージ

は種：3~4月育苗

収穫：11月~3月

収量：2t~3t/ μ （製品：750kg/ μ 上海市平均800kg/ μ ）

イ 品種

元蔵、吉蔵、長悦、金長3号、長宝、明彦



品種：元蔵、は種：3月、定植：60~70日後、収穫：11月下旬

ウ 輸出規格

直径：L L = 2.2 cm ~ 2.8 cm L = 1.7 cm ~ 2.1 cm M = 1.4 cm ~ 1.6 cm

軟白：最低30cm（通常35cm）

カ 輸送コスト

上海港 日本：\$1,300/コトナ（15t）で安定している。

(2) キャベツの生産・出荷の動向

高温・早魃により、収量及び品質は低下する見込み。

国内販売向けに栽培しているが、輸出向けの注文がある場合に、数量・価格・規格を決め輸出。契約期間内の輸出価格は変動しない。

ア 生育ステージ

は種：8～9月育苗

収穫：11月～3月

イ 品 種

美貌、七草等

ウ 輸出規格

生鮮用：8玉/10kg

カ 輸送コスト

上海港 日本：\$1,300/トン(18t)で安定している。

2 上海市崇明島

崇明島は、上海市の北東、長江の河口に位置する面積1,200k m²の台湾島、海南島に次ぐ3番目に大きい島で、人口65万人、26の郷鎮、耕地面積約4.7万ha。長江の流出土が年間6.6ha堆積し、島の面積が毎年拡大している。島には、8つの国営(市)農場があり、野菜、米などの農作物の他、魚の養殖なども行われている。工業汚染の少ない地域であり、市政府による農業の開発が進められている。

調査会社は、主として日本に輸出している会社であり、上海市S集团公司の傘下で農場も経営している。耕地面積7,500ムのうち野菜を5,500ム栽培し、連作回避等のために水稻を2,000ム栽培している。

野菜の主な栽培品目は、白ねぎ2,500ム、キャベツ1,400ム、ブロッコリー500ム、カリフラワー200ム、紫キャベツ200ム等である。

集団総会社全体では、マレーシア、香港、シンガポール、韓国などにも輸出し、中東地域の市場(サウジアラビア、カタール)も開拓しているとのことであった。

集団総会社は、日本との合資会社から資材・生産技術等を導入し、品質・安全性等の向上を図ってきたが、2002年5月には有機肥料工場を完成させるとともに、2002年12月にはコンピュータで制御する60ム(4ha)のビニールハウス団地を造成し、上海市の量販店向けに有機野菜(国家環境保護局基準、きゅうり、トマト、ピーマン、ミニトマト)を栽培している。

また、日本ユーザーの要請により安全性を確保するためのトレーサビリティシステムを完成させている。

当該トレーサビリティシステムは、ほ場ごとのコード番号による栽培管理記録システムと農産物に添付されたコード番号により、その栽培履歴の閲覧を可能にするものである。

各ほ場に配置された農業大学卒業生スタッフにより毎日の作業日誌が記載されるとともに、会社の技術スタッフにより生産ほ場の写真記録が7日～10日おきに記録されるとしている。

当該情報は、インターネットで公開されており、日本ユーザー及び一般消費者は購入した農産物の栽培状況等の把握が可能となっている。

当該会社は、当該安全管理システムによって製品のブランド化、他産地との差別化を図っているが、現在のところ価格への転嫁は困難な状況にあり、コストアップとなっているのが現状である。このため、中東諸国等への市場開拓を行っているものの、現在のところ輸出拡大までには至っていない。

(1) 白ねぎの生産・出荷の動向

生育期の高温の影響は受けたものの、本土と異なり降雨もあり作柄は良好であった。

ア 生育ステージ

は種：3月15日～4月15日

定植：5月8日～7月1日

収穫：11月10日～3月20日

収量：700～800 kg/△、原料収量：2.3 t～3 t/△

イ 品種

金長、明彦、長悦、吉蔵

ウ 輸出規格

白ねぎ：A品 軟白 35 cm以上

B品 軟白 30～35 cm

結束 330 g以上（3本=直径1.8～2.2 cm、4本=直径1.4～1.8 cm）

（2）キャベツの生産・出荷の動向

白ねぎと同様に、生育期の高温の影響は受けたものの、作柄は良好であったが、は種期の高温早魃により、一部ほ場において蒔きなおしが行われた。この影響により上海市のキャベツの種子価格は1,200/kgから1,700～1,800/kgへと高騰したため、同じ冬季の産地である福建省の種子価格も上昇した。

ア 生育ステージ

は種：8月15日～8月30日

定植：9月25日～10月1日

収穫：11月25日～3月20日

収量：2.5 t/△（原料）

イ 品種

美貌、七草等、追風

ウ 輸出規格

生鮮用：1.25 kg以上/1玉、8玉/10 kg



は種：2月20日、定植：5月10日、収穫：11月末
は種：7月2日、定植：8月2日、収穫：11月中旬
は種期を、例年より早めてる。

2 浙江省慈溪市

慈溪市は、杭州湾に面し、綿が主な農産物であったが、現在ではキャベツ、ブロッコリー、はくさい等が多く栽培され、冷凍野菜工場も数社あり、生鮮野菜とともに冷凍野菜も輸出されている。

産地の近隣に 3 ヶ所の加工工場があり、キャベツはカット・乾燥加工、ブロッコリーは冷凍加工され、輸出力の変動に対する調整弁となっている。当該地域の農民は、干拓地であることからもともと経営規模は大きい、借地により経営耕地が 1,000 ヶを超え大規模農家が出現している。

(1) キャベツ等の生産・出荷の動向

当該地域における野菜の作柄は、生育期の高温・早魃により作柄は不良で、キャベツは小玉傾向となっている。

キャベツ、ブロッコリーの作付面積は、前年の買付価格に大きく影響されて増減し、はくさいの作付は、この作付変動の受皿となっている。当該産地において作付面積の変動が大きいのは、農民は輸出公司及び加工工場が買付けを行うことを前提とし、契約を交わすことなく栽培していることが原因であると推測される。



は種：8月末、定植：9月、収穫：11月末



は種：7月、定植：8月、収穫：11月中旬

3 福建省 州市 浦県

浦県は、州市に属する、人口 80 万人、耕地面積 3.4 万 ha、20 郷鎮の県で、気候は亜熱帯海洋性気候に属し温暖で無霜期間は 350 日である。特に、無霜地帯で「金三角地帯」と呼ばれている東シナ海に面する東部地域の赤湖鎮では、耕地面積 2,500ha のうち 1,300~2,000 ha で、ねぎ、たまねぎ、にんじん、だいこん、にんにく、はくさい、豆類などの野菜が栽培されている。

(1) たまねぎの生産・出荷の動向

福建省のたまねぎ主要産地である廈門市同安区、州市 浦県においては、各 1 万ムメの合計 2 万ムメが通常の作付面積で、前年の価格動向で変動する（前年価格高 作付面積増加）

2002 年作付面積は、2001 年の価格安のため通常の 50~60%まで減少したが、2002 年の価格が堅調であったため 2003 年は通常の面積 2 万ムメに回復している。

作柄は、2003 年 11 月 7 日時点では順調に生育している。

ア 生育ステージ

は種：9月上旬~10月上旬

定植：10月下旬~10月下旬

収穫：2月下旬~3月下旬

収量：2,600 kg/ムメ（剥き玉、剥き + 上下カットの平均）、原料収量：4.0 t/ムメ

イ 品種

SOL（米国種）

ウ 輸出規格

水分が多く、剥き玉、剥き+上下カットの輸出が主体。収穫時期の3月の気温が高くなると「とうだち」の栽培リスクが高い品種である。また、国内には出荷時期が重なる雲南省の産地と競争する。

(2) キャベツの生産・出荷の動向

調査の段階では、作柄は明確でなかったが、天候が順調であれば良好となる模様である。

キャベツは、国内消費が多いことから国内出荷が主体であり、輸出は、日本国内価格の高騰によるスポット輸出である。しかし、栽培はスポット輸出に備え、日本の基準に従い行っている。また、ロシアとの国境に所在する輸出会社の買付けによる国境貿易も行っている。

国内価格は、日本輸出価格に近い水準にあり、輸出リスクの少ない品目である。

ア 生育ステージ

は種：8月上旬～10月下旬

定植：9月上旬～12月下旬

収穫：12月下旬～4月上旬

収量：2,300 kg/△、原料収量：3.5 t/△

イ 品 種

四季

(3) 白ねぎの生産・出荷の動向

福建省南部地域の白ねぎの主要産地である 州市 浦県においては、赤湖鎮1万△、その周辺1万△と全体では2万△程度が作付けられている。

天候不順の影響で農産物価格の上昇が予想され、野菜作付面積は全般的に増加している。赤湖鎮の白ねぎ栽培は96年に開始され1998年以降本格化した。現在までのところ安定した価格で推移してきたことから増加傾向が続き、2003年作付面積は対前年20%の増加が見込まれている。

は種期7月の高温・早魃で70%の発芽率であったことから、再は種を行った地域もあった。このため、出荷が開始する1月から2月における出荷量は20～30%の減少が予想され、再は種した白ねぎの出荷が開始する3月から4月における出荷量は通常出荷のものと同重なることから、相当量の増加が予想されていた。

ア 生育ステージ

は種：8月中旬～9月上旬

定植：10月上旬～11月上旬

収穫：2月中旬～3月中旬

収量：1,300 kg/△、原料収量：4.0 t/△

イ 品 種

金 3号

(5) 海上運賃コスト

福建省福州港・厦門港から日本までの海上運賃は、山東省の2倍となる。現在の省福州港・厦門港から日本までのリーファコンテナ海上運賃は\$1,200～\$1,350(上下10%変動)であるが、上海港は\$850～\$900である。現在の中国の海運状況は、荷物が増加していることは確かだが、それ以上に船会社の競争が激しく運賃は低下傾向にあり、また、大口ロットの増加傾向からも低下傾向にある。



は種：6月末、定植：8月、収穫：1月上旬



は種：7月上旬、定植：8月末~9月上旬、収穫：1月~